



# 2006 ニッケレポート

第176期(平成17年12月1日~平成18年11月30日)

日本毛織株式会社



**NIKKE.**

## 「健康・快適・安全を提供する生活創造企業グループを目指して」

株主の皆様には、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。ここに第176期(平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)のニッケレポートをお届けするにあたり、ご挨拶をかね業績の概況をご報告申し上げます。

**当期における経済環境は**、設備投資の増加や輸出を背景に企業業績は引き続き好調で、雇用環境も改善に向かい、緩やかながら戦後最長であった「いざなぎ景気」を上回ることとなりました。しかし懸念材料であった原油価格の高騰が素材価格の上昇へと波及し、また米国経済の減速や一旦回復しかけた個人消費も鈍化し、本格的な景気拡大には至りませんでした。

**このような情勢のなか**、当社グループは「2004年-2006年ニッケグループ中期経営計画」の最終年度として、計画達成に向け重点戦略に沿い、以下の施策を実施いたしました。

**繊維事業におきましては**、中国における織物一貫生産体制をさらに増強し、中国や欧米への販路拡大を推し進めるとともに、国内では生産効率のさらなる向上を目的に紡績工場の再編を行いました。

**非繊維事業におきましては**、「ニッケコルトプラザ」のイースト館をリニューアルし集客力の維持向上を図るとともに、遊休土地の収益事業化やペット関連事業の統廃合により、収益基盤の強化を図りました。

**また、生活・産業資材分野を今後の成長領域としてとらえ**、これまでの当社グループにはない合織技術の獲得と既存の産業資材・スポーツ事業とのシナジー効果を目的に、株式会社ゴーセンをグループに加えました。

**以上の結果**、連結売上高は815億円余(前期758億円余)、連結経常利益は65億円余(前期63億円弱)、連結当期純利益は41億円強(前期37億円余)となりました。



**配当金につきましては**、昨年に引き続き2円増配し、さらに創立110周年記念配当3円を加え、年間合計17円としており、昨年8月に中間配当金として1株につき7円お支払いいたしましたので、当期の期末配当につきましては、1株につき10円とさせていただきます。

**当社グループは**、2008年度に売上高1,000億円超、営業利益83億円、純利益50億円を目指す「ニッケグループNN2008経営計画」を策定し、持続的な成長と収益性向上に向けて取り組んでまいりたいと存じます。

また、2005年度より「ニッケ全日本テニス選手権」へ特別協賛し、2006年度より「ニッケPure Heartエッセー大賞」を立ち上げ、今後もこれらの活動を通じて、コーポレートブランドの社会的認知度向上と当社グループのイメージ向上を図るとともに、法令遵守と危機管理を一層徹底するため、「ニッケグループ企業倫理規範」の更なる定着と実

践を推進し、より実効性のある内部統制システムの構築に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成19年2月  
代表取締役社長

降井 利光



### 繊維事業 / 衣料繊維製品

**梳毛織糸は**、消費回復と婦人服分野でのウール回帰による国内需要の増加や、中国に立ち上げた染色会社「江陰日毛印染有限公司」の生産寄与により、増収となりました。ニット糸は中国等への販売が増加し、増収となりました。紡毛糸は新規販路開拓で増収となりました。手編毛糸は新商品の開発に努め、増収となりました。

**紳士服は**、「クールビズ」・「ウォームビズ」対応素材を含めた新機能・高付加価値素材の開発および他社とのコラボレーションによる商品開発を進め、大型専門店・百貨店・有力アパレルなどへの製品納入を含めた取り組みを強化いたしました。しかし、スーツ需要の減少・ブラックフォーマル市場の縮小等、市場構造が大きく変化しつつあるなか、流通段階での在庫調整により受注が伸びず、減収となりました。

**婦人服は**、上質感・高品質素材が求められるようになり、ウールおよび天然複合差別化素材を武器に、アパレルの高級ブランドやヤングキャリアブランドと取り組みを強化した結果、増収となりました。

### ■「ジャパン・テキスタイル・コンテスト」グランプリ受賞

「ジャパン・テキスタイル・コンテスト2006」のグランプリ（経済産業大臣賞）に、当社企画開発部の古谷英治が選ばれました。

グランプリを受賞した作品「超軽量ウーステッド」は、150番の双糸を使用したサージで、最高品質の原料、紡績限界番手への挑戦、難易度の高い製織、手間を惜しまない入念な仕上げなど、当社技術力の集大成と言うべき織物となりました。

ウールでベビースキンのような繊細さを見事に表現し、当社の技術力と商品開発力が、世界トップクラスであることをアピールすることとなりました。



### ■ユニフォーム総合展

創立110周年事業として、製造・企画・スクール・ビジネスが一堂に会した「総合展」を東京・大阪の2会場で開催しました。「ユニフォーム」を文化として捉え、健康・快適・安全・環境をキーワードとした展示会にご満足いただき、さらなる飛躍に繋がるものとなりました。



**スクールユニフォームは**、私学小等部の開設、公立の小中一貫校の新設、公立中学・高校の全国的な統廃合の進展、教育改革に伴う新しい形態校の設立等、環境変化による制服のモデルチェンジ校が増加するなど活性化しました。当社グループは、学校・業界に対し、高品質・高付加価値・高機能素材の積極的な企画・開発・提案を行い、さらにニット製品など周辺商品を拡販した結果、増収となりました。

**ビジネスユニフォームは**、景況感の確かな回復傾向が企業業績に見えはじめましたが、大口需要には直結せず、また官公庁の予算削減の影響を受け、市場は厳しい環境で推移しました。当社グループは、新機能・高付加価値素材の開発・提案を積極的に進め、QR製造、拠点業者対策など粘り強い対応を行った結果、前期並みの実績となりました。

## 繊維事業 / 繊維資材製品

**産業用資材は**、衣料用芯地・手芸用途などの長期低迷に歯止めがかからず、また産業用耐熱不織布・ガラス研磨用フェルト等の需要減少もありましたが、自動車およびOA機器向け不織布と焼却炉用フィルターが好調に推移し、加えて輸出を含む楽器用フェルトの需要回復も手伝って、増収となりました。

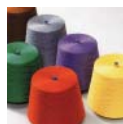
**寝装品は**、生産・流通の構造変化が続くなか、中国生産の拡大、新規販売ルートの開拓、不採算品の見直し等を行いました。主力のギフト・専門店ルートの苦戦が響き、減収となりました。

**カーペットは**、新規住宅着工戸数ならびに民間の設備投資も増加基調となり、国内建設市場に回復の兆しが見られましたが、度重なる石油化学資材の高騰と中国からの低価格品の輸入増加により厳しい状況が続きました。当社グループは、家庭用カーペット分野における新商品の投入と新築ホテルへの納入で実績をあげましたが、テニスサーフェスの販売が苦戦し、ほぼ前期並みの実績となりました。

以上の結果、繊維事業の当連結会計年度の売上高は531億円弱と前期比5.7%増となりました。

## 「(株)ゴーセン」新たに当社グループに

# GOSEN®



テニス・バトミントンストリングスの大手メーカーである株式会社ゴーセンが、新たに当社グループに加わりました。これにより、当社グループは合成繊維技術の獲得、自動車・電気関連の産業用資材分野との連携強化、およびテニス用品・テニスサーフェス・テニススクールなどのテニス事業でトータルの展開を図ってまいります。



### 非繊維事業

**ショッピングセンター事業**は、「ニッケコルトンプラザ」のイースト館をリニューアルオープンしたため、工事期間中の賃料減により、増収となりました。

**スポーツ事業**は、ゴルフ関係ではほぼ前期並みとなりましたが、テニススクールの新店舗の本格稼働と利用者数の増加により、増収となりました。

**乗馬・ペット関連事業、介護事業、通信関連事業、アミューズメント事業**は、利用者数の増加、施設数の増加ならびにグループ会社の増加により、いずれも増収となりました。

### ペット関連会社「ニッケペットケア(株)」設立

当社ペット事業の今後における一層の発展と効率的な運営を図るため、現在のペット事業の再編を行い、ペット関連商品の総合製造販売会社「ニッケペットケア株式会社」を設立しました。



また、ブランド価値の向上と知名度アップを目指し、メイン商品であるペットフード「ファーストチョイス」のTVコマーシャルを実施しました。

**不動産事業**は、遊休地を新たに商業施設に開発したほか、大口物件の完工により、増収となりました。

### ■「ロックタウン加古川」オープン



印南工場社宅跡地に、ショッピングセンター「ロックタウン加古川」がオープンしました。家電、雑貨、書籍、衣料、飲食など多くのテナントが入り、グランドオープンでは、華々しいオープニング・イベントが催され、多くのお客様に来場していただきました。

**エンジニアリング事業**は、自動車業界を中心とした設備投資は旺盛でありましたが、一部主要顧客の計画先送り等もあり、前期並みの実績となりました。

以上の結果、非繊維事業の当連結会計年度の売上高は284億円余と前期比11%増となりました。

## 全日本テニス選手権

「ニック全日本テニス選手権81st」に特別協賛

### ニッケ全日本テニス選手権

当社グループ事業と関連のあるテニスの支援と企業イメージ向上を目指し、財団法人日本テニス協会主催「ニック全日本テニス選手権第81回大会」において特別協賛(冠スポンサー)を行いました。同大会は81回の伝統と“天皇杯”(男子シングルス)“秩父宮妃記念盾”(女子シングルス)を競う名実ともに国内最高峰のテニス大会で、昨年11月12日から19日に東京有明で開催されました。

特別協賛2年目となる大会では「名門校テニス部活紹介」「チアリーディングによる応援」等イベントが行われました。

今後も「めざせ世界を!ニックがサポートします」をスローガンに本大会を支援してまいります。



## 加古川マラソン

第18回加古川マラソン大会が開かれました。



当社発祥の地、兵庫県加古川市で当社単独協賛「第18回加古川マラソン大会」が開催されました。招待選手には山口 衛里選手、大南 博美、敬美選手を迎え、3千4百人ものランナーが、日本陸連公認の豊かな自然を満喫できる河川敷コースを快走しました。

## 環境報告書

「2007環境報告書」を発行いたしました。



グループ各社の環境保全への取組み状況を掲載しております。  
(当社ホームページにも掲載しております。)

## 新メセナ事業

第1回  
ニッケ Pure Heart エッセー・イラスト大賞

18年間行ってきた「朝日ニッケ英文エッセーコンテスト」を終了し、次代を担う若者を応援する新たなメセナ事業として、「ニッケ Pure Heart 大賞」（エッセー大賞・イラスト大賞）を開始しました。

エッセー大賞は高校生・大学生など学生を対象として、「等身大の Pure Heart」をテーマに800字程度の日本語エッセーを募集したところ、予想をはるかに上回る12,600作品の応募がありました。特別審査員には乙武洋匡氏を迎え、予備審査通過者20名とお互いの作品について語り合うトークセッションを開催し、トークセッションでの対話をふまえて大賞・優秀賞を決定しました。

## エッセー大賞



タイトル  
「私の中の神様へ」  
福中香澄さん 兵庫県宝塚市



一方、イラスト大賞は4年間続いた「羊のイラストキャンペーン」を発展させた年齢不問の企画として、エッセー大賞と同テーマでイラストを募集したところ、子どもから大人まで思い思いの夢や思い出を描いた心温まる2,500作品の応募がありました。

## イラスト大賞



タイトル  
「夢のビックリ箱」

山谷妙子さん  
京都府京都市

エッセー・イラストとも大賞をはじめとする入賞作品は、当社ホームページに掲載し、また今年3月には『Pure Heart エッセー・イラスト集』のタイトルにて出版しますので、是非、数々の感動作品をご覧ください。

■ ニッケグループ NN2008経営計画 (2007~2008)

基本コンセプト

【企業理念】

衣生活、住環境からレジャー・スポーツに亘る広い分野で  
「健康」「快適」「安全」を提供する「生活創造企業グループ」を目指す

■基本方針

- 1.世界に通用する価値の創造とコストの追求
- 2.優位性と独自性を持った存在感のある企業グループを指向
- 3.経営資源の効率運用による株主価値の増大とコーポレートガバナンスの充実
- 4.環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向

(単位:百万円)

経営目標

		2006実績	2008目標
売上高	織 維	53,076	65,000
	非 織 維	28,424	40,000
	計	81,500	105,000
営業利益	織 維	2,483	3,800
	非 織 維	3,568	4,500
	計	6,052	8,300
経常利益		6,519	8,300
純利益		4,143	5,000
一株当たり純利益(円)		50	60

基本戦略

1,000億円企業として収益水準を高め、  
持続的な成長を可能とする事業構造を構築する

- 1.衣料繊維事業は国際競争下での収益構造を確立し絶えざる成長を指向する。
- 2.生活・産業資材事業、エンジニアリング事業、商業施設・スポーツ施設等の生活関連事業への経営資源の重点配分を継続し収益向上を目指す。
- 3.独立企業と同様の採算意識を持った、自己変革する事業部を指向する。
- 4.前中期経営計画において新たに追加したグループ会社については、成長と確実なシナジー効果の発揮により、グループ全体の収益に貢献する。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表 (平成18年11月30日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>[資産の部]</b>		<b>[負債の部]</b>	
<b>流動資産</b>	<b>62,821</b>	<b>流動負債</b>	<b>34,246</b>
現金及び預金	12,020	支払手形及び買掛金	11,295
受取手形及び売掛金	25,446	短期借入金	14,407
有価証券	550	一年以内に償還予定の社債	215
たな卸資産	21,706	未払法人税等	1,280
繰延税金資産	633	繰延税金負債	13
その他	2,576	その他	7,035
貸倒引当金	△112	<b>固定負債</b>	<b>26,355</b>
<b>固定資産</b>	<b>75,896</b>	社債	975
<b>有形固定資産</b>	<b>36,524</b>	長期借入金	891
建物及び構築物	24,634	繰延税金負債	8,635
機械装置及び運搬具	6,181	退職給付引当金	4,251
土地	4,731	役員退職慰労引当金	226
建設仮勘定	268	長期預り敷金・保証金	11,194
その他	707	その他	181
<b>無形固定資産</b>	<b>550</b>	<b>負債合計</b>	<b>60,602</b>
のれん	136	<b>[純資産の部]</b>	
その他	413	<b>株主資本</b>	<b>64,468</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>38,821</b>	資本金	6,465
投資有価証券	31,603	資本剰余金	4,532
長期貸付金	13	利益剰余金	56,234
前払年金費用	4,474	自己株式	△2,763
繰延税金資産	920	<b>評価・換算差額等</b>	<b>12,283</b>
その他	2,221	その他有価証券評価差額金	12,040
貸倒引当金	△411	繰延ヘッジ損益	121
		為替換算調整勘定	121
		<b>少数株主持分</b>	<b>1,363</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>78,115</b>
<b>資産合計</b>	<b>138,718</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>138,718</b>

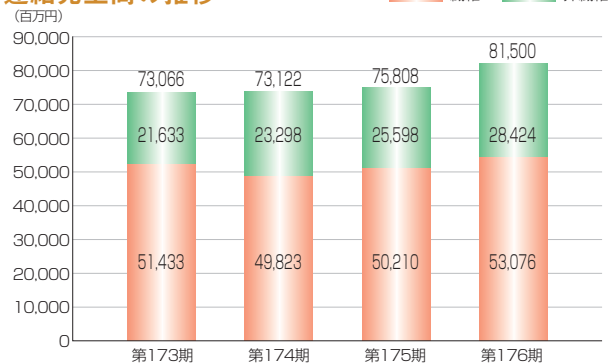
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

## 連結損益計算書 (平成17年12月1日から平成18年11月30日まで) (単位:百万円)

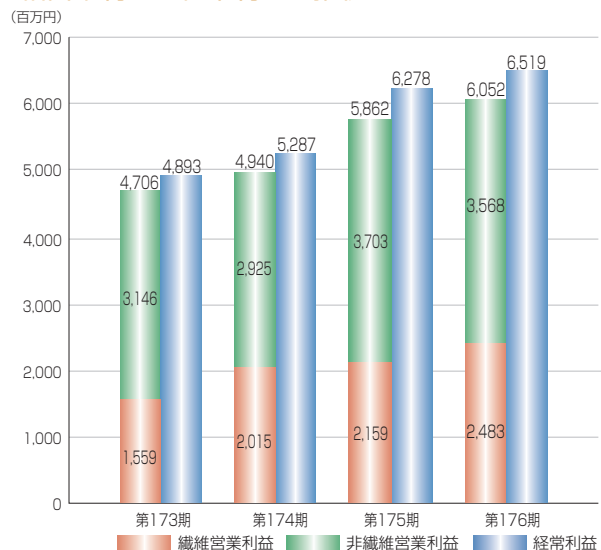
科目	金額	金額
売上高	81,500	
売上原価	63,015	
<b>売上総利益</b>	<b>18,485</b>	
販売費及び一般管理費	12,433	
<b>営業利益</b>	<b>6,052</b>	
営業外収益		
受取利息及び配当金	434	
のれん償却額	120	
その他の他	460	1,015
営業外費用		
支払利息	229	
その他の他	318	548
<b>経常利益</b>	<b>6,519</b>	
特別利益		
投資有価証券売却益	4,280	
収用補償金	136	4,416
特別損失		
出資金譲渡損	20	
出資金評価損	13	
減損損失	163	
構造改善費用	354	
環境対策費用	131	
貸倒引当金繰入額	130	
のれん償却額	1,840	2,653
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>8,282</b>	
法人税、住民税及び事業税	2,214	
法人税等調整額	1,832	
少数株主利益	91	
<b>当期純利益</b>	<b>4,143</b>	

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

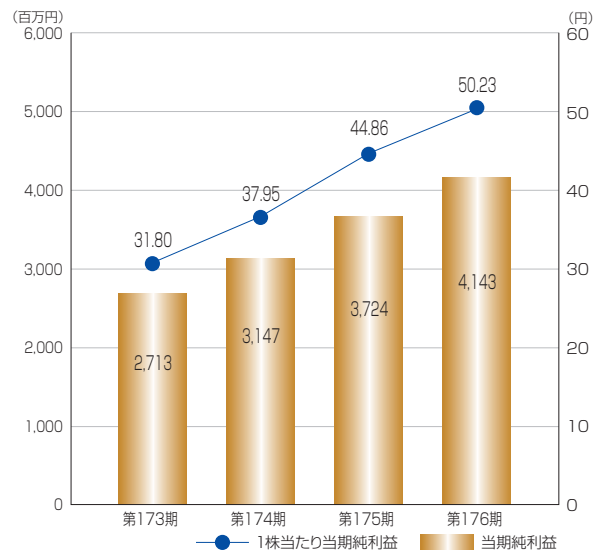
## 連結売上高の推移



## 連結営業利益・経常利益の推移



## 連結当期純利益の推移



## 連結株主資本等変動計算書 (平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)

(単位:百万円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等				少数株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰越ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前 期 末 残 高	6,465	4,512	53,215	△ 2,775	61,417	14,665	-	104	14,769	997	77,184
当 期 変 動 額											
剰 余 金 の 配 当	-	-	△ 1,073	-	△ 1,073	-	-	-	-	-	-
当 期 純 利 益	-	-	4,143	-	4,143	-	-	-	-	-	-
自 己 株 式 の 取 得	-	-	-	△ 82	△ 82	-	-	-	-	-	-
自 己 株 式 の 処 分	-	19	-	94	113	-	-	-	-	-	-
利益処分による役員賞与	-	-	△ 33	-	△ 33	-	-	-	-	-	-
持分法適用会社の増加による減少	-	-	△ 18	-	△ 18	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	△ 2,624	121	16	△ 2,485	366	-
当 期 変 動 額 合 計	-	19	3,018	12	3,050	△ 2,624	121	16	△ 2,485	366	931
当 期 末 残 高	6,465	4,532	56,234	△ 2,763	64,468	12,040	121	121	12,283	1,363	78,115

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

事業の種類別セグメント情報

(平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)

(単位:百万円)

	繊維事業	非繊維事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益					
(1)外部顧客に対する売上高	53,076	28,424	81,500	—	81,500
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	123	347	470	(470)	—
計	53,199	28,771	81,971	(470)	81,500
営業費用	50,716	25,202	75,919	(470)	75,448
営業利益	2,483	3,568	6,052	—	6,052

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,100
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	362
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,846
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13
V 現金及び現金同等物の増減額	△ 3,397
VI 現金及び現金同等物の期首残高	14,942
VII 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	389
VIII 現金及び現金同等物の期末残高	11,935

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

貸借対照表

(平成18年11月30日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>[資産の部]</b>		<b>[負債の部]</b>	
流動資産	40,022	流動負債	19,534
現金及び預金	7,236	支払手形	2,013
受取手形	2,817	買掛金	2,381
売掛金	13,307	短期借入金	6,622
有価証券	500	未払金	2,231
製品	5,997	未払費用	1,294
原材料	803	未払法人税等	1,044
仕掛品	3,730	預り金	2,230
繰延税金資産	488	その他	1,715
短期貸付金	4,780	固定負債	22,642
その他	375	長期借入金	606
貸倒引当金	△ 16	繰延税金負債	8,247
固定資産	73,335	退職給付引当金	2,741
有形固定資産	27,083	役員退職慰労引当金	147
建物	18,566	長期預り敷金・保証金	10,829
構築物	2,812	その他	70
機械及び装置	2,627	負債合計	42,177
車両運搬具	17		
工具器具及び備品	346	<b>[純資産の部]</b>	
土地	2,568	株主資本	59,198
建設仮勘定	143	資本金	6,465
無形固定資産	86	資本剰余金	5,090
のれん	9	資本準備金	5,064
ソフトウェア	26	その他資本剰余金	25
その他	50	利益剰余金	50,406
投資その他の資産	46,165	利益準備金	1,616
投資有価証券	30,935	その他利益剰余金	48,789
関係会社株式	5,803	自己株式	△ 2,763
出資金	52	評価・換算差額等	11,981
関係会社出資金	1,882	その他有価証券評価差額金	11,982
長期貸付金	1,709	繰延ヘッジ損益	△ 0
破産・更生債権等	835	純資産合計	71,179
長期前払費用	30		
前払年金費用	4,474	負債及び純資産合計	113,357
その他	1,070		
貸倒引当金	△ 629		
資産合計	113,357		

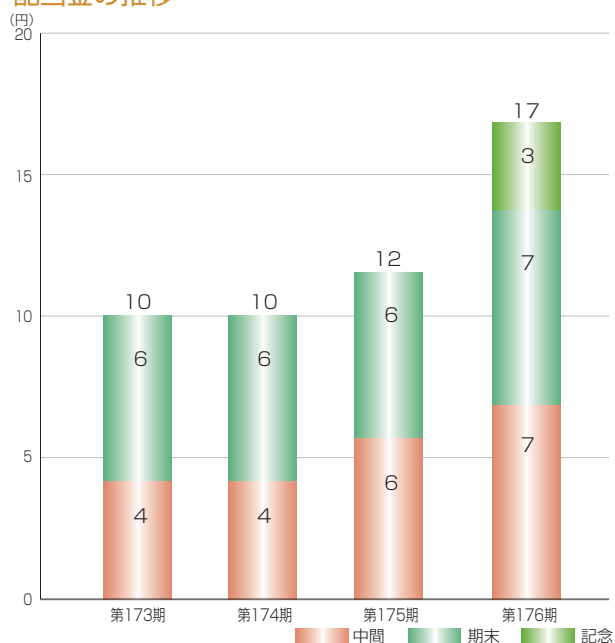
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

## 損益計算書 (平成17年12月1日から平成18年11月30日まで) (単位:百万円)

科目	金額	
売上高		44,952
売上原価		35,220
売上総利益		9,732
販売費及び一般管理費		5,095
営業利益		4,636
営業外収益		
受取利息及び配当金	749	
その他の	612	1,361
営業外費用		
支払利息	91	
その他の	550	641
経常利益		5,355
特別利益		
投資有価証券売却益	4,132	
収用補償金	136	4,268
特別損失		
出資金譲渡損	41	
出資金評価損	13	
減損損失	163	
構造改善費用	46	
環境対策費用	70	
関係会社整理損	591	926
税引前当期純利益		8,697
法人税、住民税及び事業税		1,810
法人税等調整額		1,604
当期純利益		5,282

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

## 配当金の推移



## 株主資本等変動計算書 (平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本							評価・換算差額等				純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰越ヘッジ損益		評価・換算差額等合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計						
前期末残高	6,465	5,064	19	5,084	1,616	44,607	46,223	△2,713	55,060	14,573	-	14,573	69,633
当期変動額	-	-	-	-	-	△1,073	△1,073	-	△1,073	-	-	-	-
剰余金の配当	-	-	-	-	-	5,282	5,282	-	5,282	-	-	-	-
当期純利益	-	-	-	-	-	-	-	△81	△81	-	-	-	-
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	30	37	-	-	-	-
自己株式の処分	-	-	6	6	-	-	-	-	26	-	-	-	-
利益処分による役員賞与	-	-	-	-	-	△26	△26	-	26	-	-	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△2,591	△0	△2,592	-
当期変動額合計	-	-	6	6	-	4,182	4,182	△50	4,138	△2,591	△0	△2,592	1,546
当期末残高	6,465	5,064	25	5,090	1,616	48,789	50,406	△2,763	59,198	11,982	△0	11,981	71,179

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

## ■会社概況

社名	日本毛織株式会社
設立	1896年(明治29年)12月3日
資本金	6,465,692,900円
従業員数	689名(連結4,029名)
営業品目	毛糸・毛織物その他各種繊維製品製造加工販売、ショッピングセンター、スポーツ、賃貸事業
当社ホームページ	http://www.nikke.co.jp

## ■主な事業所

本店	神戸市中央区明石町47番地
本社	大阪市中央区瓦町3丁目3番10号
東京支社	東京都中央区八丁堀1丁目2番8号
印南工場	兵庫県加古川市米田町船頭440番地
一宮工場	愛知県一宮市今伊勢町本神戸字河原1番地
岐阜工場	岐阜県各務原市鷺沼各務原町8丁目7番地
ニッケパークタウン	兵庫県加古川市加古川町寺家町173番地1
ニッケコルトンプラザ	千葉県市川市鬼高1丁目1番1号

## ■取締役、監査役および執行役員

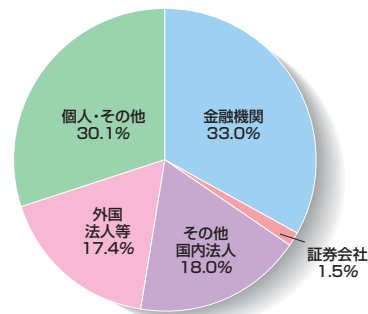
取締役会議長	中井宏明	常勤監査役	岸本紀雄
取締役社長	降井利光	常勤監査役	聖澤良二
取締役常務執行役員	谷憲治	社外監査役	近藤定男
取締役常務執行役員	松村博昭	社外監査役	中村俊雄
取締役常務執行役員	山本義行	執行役員	樫根哲郎
取締役	池田康之	執行役員	磯崎幸士
取締役執行役員	佐藤光由	執行役員	星田和紘
社外取締役	丹羽一彦	執行役員	藤原卓満

## ■主な関係会社

アカツキ商事株式会社	東京都墨田区両国2丁目1-3
アンピック株式会社	兵庫県姫路市城東町180
株式会社ニッケ機械製作所	兵庫県加古川市加古川町寺家町269-1
青島日毛織物有限公司	中国山東省青島市城陽区双元路青大工業園
江陰日毛紡績有限公司	中国江蘇省江陰市顧山鎮北国老錫張路96号

## ■株式の概況

株主数	10,923名
発行可能株式総数	192,796,000株
発行済株式総数	88,478,858株



## 大株主

株主名	所有株数
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,014,417株
株式会社三井住友銀行	3,991,000株
株式会社みずほコーポレート銀行	3,988,000株
帝人株式会社	2,905,000株
日清紡績株式会社	2,763,000株
日本生命保険相互会社	2,183,285株
株式会社竹中工務店	2,000,000株
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505019	1,806,000株
ニッケ従業員持株会	1,751,949株
株式会社損害保険ジャパン	1,690,000株

※当社の保有する自己株式5,926,344株は上記の表には含まれておりません。

## ■株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会	2月下旬
株主総会・期末配当金基準日	11月30日
中間配当金基準日	5月31日
証券コード	3201
公告方法	電子公告 <a href="http://www.nikke.co.jp/investor/koukoku/index.html">http://www.nikke.co.jp/investor/koukoku/index.html</a> (電子公告できない場合は神戸新聞に掲載します。)
株主名簿管理人	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話(通話料無料)	0120-094-777(土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)
	( ※平成19年5月7日より、株主名簿管理人事務取扱場所の住所が以下のとおり変更になります。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号 なお電話番号は変更ありません。 )
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

○単元未満株式の買取請求、買増請求も承っております。

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部)  
0120-684-479(大阪証券代行部)

ホームページアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

## 当社専属

### 「中村藍子選手」2006年の活躍

テニススポーツ界の発展に向けて、当社は2005年10月女子プロテニスプレーヤーの中村藍子選手と専属契約を締結しました。中村選手は2006年11月末時点で世界ランキング57位(WTA)、日本ランキング2位(JOP)と、日本が期待する選手へと着実に成長し、当社の企業イメージの向上と当社グループ関連事業への波及効果も更に期待できる戦績をあげました。

■ニック全日本テニス選手権  
シングルス 準優勝

■AIGオープン  
シングルス 準優勝

■フェド杯  
日本代表

■全豪オープン  
本戦3回戦



## WEB/IR情報

最新のIR情報は  
当社ホームページでもご覧いただけます。

URL <http://www.nikke.co.jp/investor/index.html>

信頼の軌跡、さらなる飛躍。  
NIKKE 110th



日本毛織株式会社



古紙配合率100%の再生紙と  
大豆油インクを使用しています。



知るほどなるほど、元気なニッケが見えてくる。

<http://www.nikke.co.jp>

表紙の壁に掛けられた作品は、1930年代に当社ポスターに使用された奥山儀八郎作の版画複製です。